

日本画



初なりの頃



田原宏明さん
(大通南)

田原さんは日本画を三十年ほど前から始め、四年前の定年退職を機に、集中的に活動しています。日本画だけでなく洋画も描き、昨年は洋画部門で議長賞を受賞しました。
作品は、自宅の畑で実を付けた早朝のナスがモデル。スケッチブックに何枚もナスを描き、バランスを考えながらそれらの絵を大きな紙に書き写しました。「表現したのは、実り初めのナスのすがすがしき。幹と葉の関係や、葉同士をうまく引き立たせるのに苦労した」と田原さん。「来年もウチの野菜を出展するかもね」と笑顔で話してくれました。

洋画



冬の果樹園(三条市代官島にて)



上杉昭芳さん
(古川)

「屈指二十五年。やったね上杉さん。人まねをせず、自分流を貫いてきた上杉さんへ洋画仲間が贈った言葉です。「最高のほめ言葉。本当にうれしかった」と目を細めます。「ギリギリまであきらめたら駄目」と出品直前まで手を加え、運ぶときにはまだ乾いていなかったこの作品。「雪の白とネットのブルーの調和がよかった。枝のバランスを取るの難しかったわ」と振り返ります。
この受賞で無鑑査となった上杉さんは「これで終わりじゃない。これからもっと気を入れて頑張らない」と気持ちを新たにしています。



市長賞受賞者
作品紹介

六月五日から十日までの六日間、第三十回白根市美術展覧会が白根学習館で開催されました。記念すべき三十回目となる今年には、昨年よりも多い一千五百人が訪れ、展示された力作に見入っていました。
ここでは六部門二百三十一点の作品の中から、市長賞を受賞した五作品と受賞者を紹介します。

書道

鳥歌花舞

鳥歌花舞

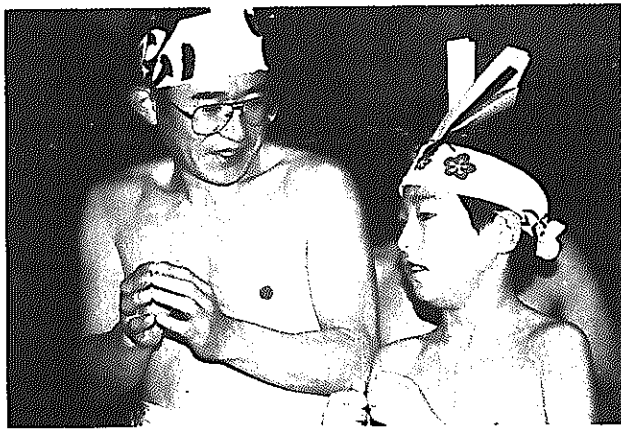


檜川仁志さん
(三条市)

高校生のころに書道を始めた檜川さん。五年前、新潟市で開かれた展覧会で、現在の師である薄田一哉さんの作品に出会い共感。すぐに薄田

さんへ電話をし、指導してほしいと申し出たそうです。薄田先生に付いてからは、数々の展覧会で受賞するように。「市長賞を受賞したことは、先生が知らせてくれました。先生も喜んでくれてうれしかったです」とその瞬間を振り返ります。
古い隷書を現代風に、明るめに表現する檜川さん。「この作品はいつもより平凡なんです」と笑います。今回の受賞で無鑑査となりました。

写真



父子(京ヶ瀬裸詣りにて)



阿部 繁さん
(新津市)

阿部さんが写真に興味を持ったのは五年前。「最初はカメラの器具をたくさんそろえ、ニヤニヤしてばかりいた」そうです。昨年から「写真」を本格的に始め、仕事の合間には撮影に出掛けるようになりました。今では、各地のイベントなどを細かく記した手帳が手放せません。
「寒い中、三十分間シャッターチャンスを狙い続けた。一発勝負だったけど父子のきずながうまく表せたと思う」と、作品を振り返ります。
初めての作品展で市長賞を受賞。「今後も市展にたくさん出品して早く無鑑査になりたい」と意欲的です。

美術工芸



陽



遠藤三津美さん
(潟東村)

「まさか受賞するとは。深く考えずに思いつくまま作ったのがよかったのかも」。友人に誘われ展覧会というものに初めて出展し、見事市長賞を受賞した遠藤さん。この作品は五月の連休中に作ったものです。
部屋中に飾られたこれまでの作品を見て「失敗なんてないさ。だって自分がいいと思えばいいんだから」と話します。今まで作った作品は写実的なものばかりでしたが、今回初めて抽象的なものに挑戦。「前からやりたくてね。イメージは真夏、太陽がメイン。あとは見る人の想像力に任せるわ」と、終始笑顔でした。